

平成 27 年第 28 回

札幌市教育委員会会議録

※ 非公開に係る議案を除く

平成27年第28回教育委員会会議

1 日 時 平成27年12月17日（木） 9時00分～10時35分

2 場 所 S T V北2条ビル4階 教育委員会会議室

3 出席者

教 育 長	長 岡	豊 彦
委 員	山 中	善 夫
委 員	臼 井	博
委 員	池 田	光 司
委 員	池 田	官 司
委 員	阿 部	夕 子
教育次長	大 友	裕 之
生涯学習部長	長谷川	雅 英
学校施設担当部長	本 居	文 男
学校規模適正化担当課長	大 木	敬 治
学校規模適正化担当係長	河 合	俊 邦
学校規模適正化担当係員	鈴 木	太 也
学校教育部長	引 地	秀 美
教育推進課長	仙 波	晴 彦
学事係長	穴 田	卓 也
学事係員	藤 田	慎一朗
学事係員	福 田	憲 司
学びの支援係長	塩 越	寛 史
特別支援教育推進担当係長	田 中	進 一
高等支援学校担当係長	小 山	学
学びの支援係員	佐 藤	弘 一
教育課程担当課長	長谷川	正 人
企画担当係長	横 道	幸 紀
指導主事	小 林	明 弘
指導主事	関 根	昌 彦
義務教育担当係長	佐 藤	圭 一
義務教育担当係長	船 着	千 世
義務教育担当係長	野 田	隆 之
義務教育担当係長	伊 達	峰 史

義務教育担当係長	大	井	一	雄
指導主事	末	原	久	史
指導主事	三	浦	敦	司
特別支援教育担当係長	山	田	浩	富
研修担当係長	菅	野	智	広
児童生徒担当部長	松	田	昌	樹
総務課長	竹	村	真	一
庶務係長	井	上	達	雄
書記	岡	部	歌	織

4 傍聴者 4名

5 議 題

報告第1号 「平成27年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について

報告第2号 「平成26年度札幌市学習実現状況調査」及び「平成27年度全国学力・学習状況調査」の実施報告書について

議案第1号 「平成28年度全国学力・学習状況調査」への札幌市の対応について

議案第2号 高等支援学校の校名について

議案第3号 平成28年度札幌市奨学生（予約採用者）の選定について

議案第4号 札幌市情報公開・個人情報保護審査会の答申に係る裁決案について

【開 会】

○長岡教育長 これより、平成27年第28回教育委員会会議を開会します。

本日の会議録の署名は、池田光司委員と池田官司委員にお願いします。

本日の議案第3号は奨学生の選定に関する事項、議案第4号は不服申立てに関する事項です。教育委員会会議規則第14条第1項第1号及び第5号の規定により公開しないこととしたいと存じますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○長岡教育長 それでは、議案第3号及び第4号は、公開しないこととします。

【議 事】

◎報告第1号 「平成27年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について
○長岡教育長 報告第1号について、事務局から報告をお願いします。

○学校教育部長 報告第1号「『平成27年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査』について」ご説明します。

今年度の調査結果については、12月11日（金）に、全国及び都道府県ごとの結果をスポーツ庁が発表しました。札幌市全体の結果についても、教育委員会として受領したので、その結果の概要を報告します。

資料1「平成27年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果（小学校）」をご覧ください。

ここで用いている数値は、全国平均を50点とし、その全国平均値に対して、どのくらい上回っているか、下回っているかを表すT得点という偏差値のような数値となっています。

表の網掛け部分は全国平均を上回るもの、星印の部分は前年度の本市の記録と比べて高い得点のものを表しています。

表の右側から2番目の欄に体力合計点の平均値とありますが、この数値は、全児童生徒の体力合計点の平均値です。体力合計点とは、8種目の記録を10段階、1から10点でそれぞれ点数化し、合計したもので、満点は80点となります。その右には、この体力合計点のT得点を掲載しております。

T得点の見方ですが、種目によっても異なりますが、50点の±1から2に位置していれば全国平均に近いと言えます。表の下にあるレーダーチャートをご覧くださいと、各種目のT得点の全国平均との差を捉えることができます。

小学校においては、男女とも昨年度より高い得点の種目があるものの、全体としてはまだ課題が見られると捉えています。

資料2、中学校の結果をご覧ください。

中学校では、全体としては、まだ課題が見られると捉えています。男女ともに、昨年度より高い得点の種目、星印のものが増えています。

小・中学校ともに、敏捷性と持久力については、これまでと同様、全国との差が大きい傾向にあり、改善が必要と捉えています。

資料3の児童生徒質問紙結果の経年変化をご覧ください。

「運動やスポーツをすることが好き」「体育の授業は楽しい」と考える子どもの割合は、小・中学校、男女ともに、全国と比べてやや高い傾向にあり、特に、女子においては、小・中学校ともに意識が高まってきている様子が見られます。

また、体育の時間を除く1週間の総運動時間が60分未満の子どもの割合が小・

中学校、男女ともに昨年度と比較して減少しており、ほとんど運動しないという子どもは減ってきている傾向にあります。

以上が結果概要になりますが、今後、各学校において、より一層、体育の授業の質の向上や、休み時間、放課後等に体を動かす場の充実、家庭や地域と連携した運動習慣づくりに取り組むことが重要であると考えています。

事務局としては、大学の研究者等の協力も得ながら、調査結果の詳細な分析を進めていく予定です。また、各学校に調査結果を踏まえた体力向上のプログラムの作成・実行について働きかけるとともに、運動意欲や基礎体力の向上が図られるよう、好事例の普及や教員研修の充実などを推進してまいります。

報告は以上です。

○長岡教育長 報告第1号について、ご質問はございますか。

○池田（光）委員 数字で表せるかどうかは分かりませんが、何が一番望ましいと捉えるとよいのでしょうか。

例えば、点数で50点とありますが、60点がよいのか、70点がよいのか。何か突出していればよいのか、その辺りはどのように考えるとよいのでしょうか。

○学校教育部長 今回お示ししている50というのは、あくまでも全国平均点を50とした場合に、そこを上回っているか、下回っているかの数値であり、生の数字ではありません。

ただ、今後はデータも含めて分析をして、また、皆様にお示しする機会をつくりたいと思っておりますが、あくまでも全国平均と比較した場合の増減を表したものです。

望ましいという部分については、やはり、体力合計点等が、どうであるかというところが1つの目安になると思います。あとは、昨年までの札幌市との比較において子どもたちの伸びはどうかという見方もあると思います。

○山中委員 その伸びの問題ですが、全体としての印象から少し申し上げます。学年あるいは、対象児童・生徒が違うことから言って、その学年、学年で体力の違いがあるかもしれませんが、札幌市としては、前の同様の調査結果で大変な危機感を持っていろいろと取り組むようにしていただいたかと思えます。

しかし、この結果を見ると、大半は伸びていない、逆に下がっているという感じがします。

その辺りは、個別の種目の絶対値としては上がっていることを捉えれば、改善がされたのかもしれませんが、ご説明のあったT得点で伸びを見た場合に、

どうも伸びていない、むしろ下がっているように見えます。その読みが間違っているならばご指摘いただきたいと思いますが、そのように読めるのだとすれば、成果が上がっていないのは一体なぜなのか。

ただ、たった1年の取組で改善されると考えるのも早計であって、ある程度長い目で見て取り組んでいかなければならない問題だと思っています。前にも言ったことがあると思いますが、基本的に体力がないというのは、いざというときの頑張りがきかないということにもつながることなので、さらに、一層の危機感を持って進めていただきたいと感じました。

○**学校教育部長** 今ご指摘があったように、私どもとしても、子どもたちの体力、運動能力の低下というのは非常に大きな課題であると捉えています。

今回の結果については、昨年度の札幌市の部分と比べると、星印が付いているところは全国との差が縮まっている部分です。

小学校では、さほど数は多くありませんが、中学校は星印の付いているものは、今年度の札幌市の結果では多くなってきている。特に中学校の女子は課題ですので、この部分については随分差が縮まってきていると捉えています。

また、小学校の種目でいうと、20メートルシャトルラン、これは持久力を測るものですが、ここは星印が付いていて、全国との差が縮まってきています。縄跳びを推奨して2年ほどになります。現在、ほとんどの小学校で縄跳びが行われており、その成果が少しずつ出てきているのではないかと捉えています。

また、具体的な運動能力、体力の数値ではありませんが、質問紙の結果から、「運動やスポーツをすることが好き」「体育の時間が楽しい」という意欲の面で、小・中ともに全国よりも高い、あるいは、昨年度よりも伸びてきています。意欲の面が非常にプラス傾向にあるので、今がチャンスで、子どもたちのそういう気持ちがあるうちに、具体的な施策を行って、総合的に体力を高めていく取組をし、結果として数値がまた上がっていくということを何とか目指していきたいと考えています。私たちも、今後の施策については非常に危機感を持って、さらに充実させていかなければならないという必要感は十分持って臨んでいきたいと思っています。

○**山中委員** よろしくお願ひします。

○**長岡教育長** 私もそれは事務局に話していて、強制になってはいけないのですが、例えば小学生であれば、中休み、昼休みに体育館に出るようというところで指導もしているようです。強制になってはいけないということを前提にしながらも、多くの子どもがグラウンドや体育館に出て、体を動かすことを学校

として取り組むように、我々としても努めてまいりたいと考えています。

○池田（光）委員 運動に関して、指導まではいかなくても、家庭で気を付けることはどのようなことがあるのでしょうか。

保護者がこの問題を認識したとして、日曜日など休みのとき、子どもたちと一緒に、どのようなことをするのが一番よいのでしょうか。

例えば、昔はよくキャッチボールを親子でやりましたが、今はそういう場面も少ないようです。意外とストレッチのようなものを子どもたちがやっているのを見ます。

学校はこの方針でよいのですが、家庭ではどのようなことを推奨していくと、運動する機会が増えるのでしょうか。

○学校教育部長 これまでも家庭にパンフレット等を配るなど、学校がいろいろと啓発していますが、まずは体力づくりの基礎となる体づくりの部分で、早寝早起きやバランスのとれた食事、睡眠等の基本的な生活習慣を家庭できちんと身に付けていただきたいということがあります。また、ご家族と一緒に土・日曜日にいろいろなスポーツあるいはレクリエーションに触れる機会を多くしていただくこともあるかと思えます。

以前のリーフレットでは、体を動かす類似のお手伝いを家庭でもどんどんさせていたきたいということを啓発したこともあります。今後も学校教育だけでは限界がありますので、特に生活及び運動習慣づくりの部分ではご家庭の協力はなくてはならないと思います。その部分も含めた体力向上策を総合的に私たちもつくっていきたいと思っています。

○長岡教育長 ほかによろしいでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

○長岡教育長 それでは、報告第1号については、以上とします。

◎報告第2号 「平成26年度札幌市学習実現状況調査」及び「平成27年度全国学力・学習状況調査」の実施報告書について

○長岡教育長 報告第2号について、事務局から報告をお願いします。

○学校教育部長 報告第2号「『平成26年度札幌市学習実現状況調査』及び『平成27年度全国学力・学習状況調査』の実施報告書について」ご報告します。

別紙1「平成26年度札幌市学習実現状況調査」実施報告書をご覧ください。

この調査は、札幌市独自で調査しているものです。札幌市の教育課程の実施状況について、学習指導要領における各教科の目標や内容に照らした学習状況を把握し、指導上の課題等を明らかにした上で、今後の教育課程の編成や指導の改善に資することを目的に、平成16年度に初めて実施し、平成17年度以降、3年置きに実施しています。今回は今年2月に実施しました。

対象学年及び教科は、小学5年生の社会、中学2年生の社会と英語で、学習到達度調査とその教科に関する学習意識調査をそれぞれ実施しました。また、今年度は教科に関する学習意識調査に加え、学習全般に関わる意識や関心、学ぶ方法等を尋ねる学習についてのアンケートも実施しました。

今年度の全国学力・学習状況調査は、国語、算数・数学、理科の3教科を実施していますので、この学年の児童生徒については、5教科全てのデータがとれたこととなります。

調査対象者は、対象学校及び学級を無作為で抽出し、各学年在籍児童生徒数の約7%に相当する、小学校、中学校ともに約1,000名を対象としています。

資料の中での用語についてご説明します。

本調査では、設定通過率という数値を用いています。これは、これまでの調査の難易度や正答率などを参考にして設定した、この程度は到達してほしいと期待される正答率のことです。

本調査では、この設定通過率との比較によって結果を分析しています。

2ページ目をご覧ください。本調査の結果の全体概要です。

小学校社会では、教科全体の通過率は設定通過率を6.9ポイント下回っています。観察・資料活用の技能の観点では設定通過率とほぼ同程度で、-1.8ポイントとなっていますが、社会的な思考・判断・表現、社会的事象についての知識・理解の観点で、設定通過率を、それぞれ、4.9ポイント、10.6ポイント下回っています。

観点別に見ますと、全て設定通過率を下回っていますが、特に、例えば、日本の川の特徴を問う問題などの社会的事象の知識・理解において設定通過率との差が大きい状況となっています。

中学校社会においては、教科全体の通過率は設定通過率とほぼ同程度で+0.2

ポイントとなっています。社会的な思考・判断・表現、観察・資料活用の技能、社会的事象についての知識・理解の全ての観点で設定通過率とほぼ同程度であり、それぞれ、-0.5ポイント、-0.3ポイント、+0.9ポイントとなっています。

中学校英語においては、教科全体の通過率は設定通過率とほぼ同程度で+2.1ポイントとなっています。理解する力、言語や文化の知識・理解の観点で設定通過率とほぼ同程度であり、それぞれ、+2.0ポイント、+1.4ポイントとなっていますが、表現する力の観点で設定通過率を3.8ポイント上回っています。

続いて、学習意識調査及び学習についてのアンケートの結果についてご説明します。

今回の調査では、学ぶ方法などについて、詳しいアンケート調査も実施しました。学ぶ方法の中でも、特に教科学力との関係が大きい項目が明らかとなりましたので、ここに掲載しています。

小・中学校共通の結果としては、調べて分かったことをもとに考えをまとめることができる、授業で習ったことはそのまま覚えるのではなく、その理由や考え方も一緒に理解しようとしている、意見を書くときにはその理由をはっきりさせて書くようにしているという項目について、教科学力との関係が大きいという結果となりました。

また、小学校では、パソコンを使って調べたことをまとめたり、発表したりすることができる、授業中、自分の意見を進んで発言しているという項目について、中学校では、分からないことはそのままにせず、分かるまで努力しているという項目について、教科学力との関係が大きいという結果となりました。

これらの学ぶ方法に関わる指導を充実していくことが今後必要であると考えられます。

平成26年度札幌市学習実現状況調査の報告については以上です。

続いて、別紙2「平成27年度全国学力・学習状況調査」の実施報告書をご覧ください。

本報告書は、一つ一つの設問ごとに詳しい分析を行い、改善策等をまとめたものです。

まず、教科別とインデックスのあるページからご覧ください。

小学校国語を例にご説明します。

小学校国語1ページから7ページは、設問別調査結果と設問ごとの分析を掲載しています。小学校国語1ページ中央の設問別集計結果をご覧ください。札幌市の正答率については、これまでと同様、全国の平均正答率と比較して、5段階の黒ダイヤなどの記号で状況を示すとともに、今年度から数値でも示しています。

次に、小学校国語の1ページ下部からの設問分析のページでは、右側の小学

校国語 2 ページになりますが、黒枠で囲んだゴシック体で、今後の授業改善の方策等を示しています。

少し飛んで、小学校国語の 6 ページをご覧ください。国語学習に関する意識調査の結果を示しています。

以下、小学校算数、理科、中学校国語、数学、理科についても同じ構成で分析を示しています。

続いて、児童生徒質問紙調査結果についてご説明します。質問紙というインデックスのあるページをご覧ください。

児童生徒質問紙 1 ページから 2 ページには、全国と比較して、肯定的な回答の多いものと、肯定的な回答の少ないものを挙げています。

児童生徒質問紙 3 ページから 6 ページには、昨年度及び今年度新たに設定された質問についての結果と分析を示しています。

以上が全国学力・学習状況調査の実施報告書の全体構成となっています。

児童生徒質問紙による経年変化について、別添とインデックスのある資料をご覧ください。

昨年度に引き続いて、児童生徒質問紙から、各教科における学ぶ意欲の状況について、経年の変化を比較したグラフを作成しました。

1 ページから 2 ページをご覧ください。

こちらには、国語における学ぶ意欲の状況について示しています。国語では、小・中学校ともに国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思った子どもが昨年度同様80%を超え、昨年度よりも、やや多くなっています。

また、「目的に応じて資料を読み、考えを話す、書くこと」「発表するとき、話の組み立てを工夫すること」「考えの理由が分かるように書くこと」「段落や話のまとめりごとに内容を理解しながら読むこと」について、肯定的な回答が増えています。

続いて、3 ページから 4 ページをご覧ください。算数・数学ですが、全体的に大きな変化はありません。

さらに、5 ページの理科における学ぶ意欲の状況についてご覧ください。

平成24年度の前回と比較すると、「理科が、生活の中で活用できないか考えること」や「自分の考えを説明、発表すること」「観察・実験の結果を考察すること」について、肯定的な回答が増えています。

次に、6 ページから 7 ページをご覧ください。学習習慣の状況について示しています。

平日、土・日ともに平成19年度と比較すると学習時間は増えており、計画的に家庭学習をすることや、宿題や予習、復習を行う学習習慣づくりに肯定的な

回答が増えています。ただし、学習習慣の状況については、例えば、計画的に家庭学習をすることについては、小学校では6割強、中学校では5割を切っており、これまでと同様、札幌市の課題として捉えています。

8ページをご覧ください。読書習慣の状況について示しています。

小・中学校ともに、読書が好きと回答した児童生徒の割合は全国を上回っていますが、前年度と比較すると、小・中学校ともにやや減っています。読書習慣の定着がより一層図られるよう、今後も、札幌らしい特色ある学校教育の一つのテーマである読書の取組を推進していく必要があると考えています。

平成27年度全国学力・学習状況調査の報告は以上です。

続いて、「平成26年度札幌市学習実現状況調査」及び「平成27年度全国学力・学習状況調査」の分析のまとめと改善策についてご説明します。

今回は、2つの調査結果をあわせて分析し、札幌市の課題とその改善策についてまとめました。

別紙3とインデックスのある冊子の2ページ目をご覧ください。

こちらは、2つの調査結果を踏まえた小学校の課題をまとめたものです。3ページ目は中学校を掲載しています。

ここでは、2ページ目、3ページ目の一番下にある課題のまとめを中心に説明します。

今回、小・中学校に共通して見られたのが、基礎的、基本的な知識及び技能については、意味理解を伴った知識の習得に課題があるというふうに加えています。また、思考力・判断力・表現力等については、自分の考えなどを説明することや様々な情報などを関連付けて考えることに課題があるということ。児童生徒質問紙の結果からは、学ぶ方法について、授業における目標の設定やまとめとしての振り返り、自分たちで課題を立て、その解決に向けて追究したことを発表する学習活動に課題があるということが明らかとなりました。

また、先ほどご説明しましたが、家庭学習の定着については、個人差があり、改善の余地があると捉えています。

学ぶ意欲については、小学校では、学んだことを実生活や社会生活で活かそうとする意欲、自ら行動したり挑戦したりする意欲、中学校では、諦めずに自分から調べたり考えたりすること、積極的に話す、伝えるという意欲にそれぞれ課題が見られます。さらに、話し合う活動が活発ではないという課題も見られます。

課題の分析については以上ですが、最後に、課題を踏まえた改善策として、4ページ目をご覧ください。

改善策について大きく3点示させていただきました。

1点目は、各学校において作成、実施している「学ぶ力」育成プログラムの

実効性を一層高めるための指導主事による助言機会の一層の拡充や、校内研修の充実を図っていきます。

2点目は、課題探究的な学習の推進を図っていくことです。具体的には、小学校で学ぶ意欲と論理的思考力を高める少人数指導の充実を進めていきます。中学校では、平成28年2月発行予定の「教育課程編成の手引」を活用しながら、課題探究的な学習を進めていくとともに、学校図書館司書を活用した課題探究的な学習モデルの開発を進めていきます。

なお、課題探究的な学習の推進については、「平成28年度札幌市学校教育の重点」に、より一層大きく位置付けていく予定です。

3点目は、指導資料・家庭への啓発等の充実を図っていくことであります。

学校と家庭が連携して、学習習慣づくりを進めるための参考となるような「家庭学習のススメ」などの資料を発行することなどの取組を進めてまいります。

なお、それぞれの実施報告書、2つの調査を合わせた分析のまとめと改善策、参考資料については、この後、公式ホームページに掲載したいと考えています。

さらに、各学校に対しては、この実施報告書等の送付と合わせて、今回の報告内容を踏まえて、自校での状況を把握し改善を図ることを進めるとともに、各教科の指導主事から、きめ細かく説明する場を設け、内容についての周知を図ってまいりたいと考えています。

私からの説明は以上です。よろしくお願いいたします。

○長岡教育長 ただいまの報告について、ご質問等ございますか。

○池田（官）委員 細かいことですが、最後の別紙の分析のまとめと改善点で、例えば、2ページ、3ページ、他のところにも出ていましたが、「学ぶ方法のうち、教科学力と関係が大きいもの」ということで、アンケートの結果と教科学力の関連について、何点か紹介していただいたと思うのですが、この項目はどのように抽出したのでしょうか。

いろいろなアンケートの項目の中からこれが選び出されたのだと思いますが、どのようにしてということと、逆に、もし教科学力とあまり関係がないような項目があったのだとしたら、それを紹介していただければと思います。

○佐藤義務教育担当係長 学習実現状況調査については、業者に委託して実施していますので、設問については、調査を専門に扱っているその業者が、他の市町村で行っているような調査なども踏まえて、学識経験者からのアドバイスも受けながら設定しています。主には、学級の中でどのようなことに力を入れているか、あるいは家に帰ってからどのような習慣が身に付いているか、ある

いは社会に対してどんな関心があるかというカテゴリで細かい質問をしているところです。

これに加えて、札幌市で20項目の独自アンケートを毎年、小学校5年生と中学校2年生、全児童・生徒に対して行っていますが、この項目も入れて全部で120、130の設問を設定して子どもの実態を把握しています。

様々な設問があって、大きく影響があるものについて、先ほど述べたとおりなのですが、例えば、「クラスの中で係の当番の活動に責任を持って取り組む学級になっていきますか」といった学級のことに關する設問については、学力との相関はそう多くないという傾向が出ています。どちらかという学習習慣、あるいは社会の関心ということに強い相関が出ているという傾向が分かっていますので、その辺りを学校に周知していきたいと思っています。

○池田（官）委員 課題探究型の学習を目指していくということが全体的な方針だと思うのですが、そのことに向かうに当たって非常によい項目が抽出されているように感じています。それが、こういうふうデータから実証的に出てきているものなのかどうかを確認したかったということです。

全体としてはよい方向に向いていると言ってよいのかなという気がします。話が向かおうとする方向に合致し過ぎているような気もして、実証的なデータなのかということについて質問させていただきました。

○阿部委員 別添の最後のページの読書習慣の状況ですが、「読書は好きですか」という質問に対して、平成20年くらいまでは全国とほとんど変わらなかったところが、平成21年くらいから急激に札幌のお子さんたちが、読書が好きですと回答していて、平成22、24年になると急激に数字が伸びています。ここで取り組んだ内容を、今回の別紙3の中の最終項にある改善策についてというところに何か生かされていくと大変よいと思うのですが、その辺りの関連性としてはいかがでしょうか。

○学校教育部長 今お話がありましたように、平成21年度から「雪」「環境」「読書」の「読書」について、朝読書等を全校で進めており、子どもたちの読書意欲が増してきたという部分があります。

また、中学生の読書の影響としては、思考力・判断力の部分、活用の部分の点数が学力調査の中に反映されてきているところがあります。確かに、今後の改善策のところについては、例えば3つ目の家庭への啓発等の読書習慣、学校と家庭と連携するという辺りで、さらに読書による読解力等を高めていくということも考えられると思いますので、その辺りのところを関連付けて盛り込め

るように検討させていただきたいと思います。

○阿部委員 私の家庭の話になりますが、昨日も学校の勉強をしながら、勉強と勉強の合間に読書をしていて、読書が好きで好きでたまらないのでずっと読書をしていたいというくらい、今、とても読書に夢中です。その意欲は、朝読みが始まった平成21・22年度辺りから始まり、子ども自身、本を買いに行きたい、本を読みたいという意欲がとても高まっていて、意欲が高まるのが家庭でも感じられて、子どもから受ける家庭への影響をととても感じました。そう考えると、家庭から発信できることと、子どもから発信されて保護者が影響を受けることが多くあると思います。

ですから、小学校や中学校での授業の取組の影響を受けて、保護者も一緒になってできることがあるという流れができると、全体的な底上げになって、数字としてもこの改善にもつながっていくのではないかと思います。この読書の例で言うと、とてもよい取組をされているので、この取組例をこちらにも生かせるような、それこそPDCAサイクルではないですけども、そのような取組ができるととてもよいと感じました。今の学校教育部長のお話を含めて、学校での取組が家庭にも影響されるようなことができるとさらによいかなと思いました。

○学校教育部長 読書も含めて、学校で学んだことを家庭学習の中に生かしていけるような、計画的な学習が少し弱いという傾向にあります。そういうことも例示しながら、家庭でもお子さんと相談して取り組んでみてはいかがでしょうかということ働きかけるなど、最後のページの「家庭学習のススメ（仮称）」の中で、学校と家庭との連携、相互作用のようなところを少し盛り込んでいくことを考えていきたいと思います。

○阿部委員 お願いします。

○池田（光）委員 別紙3の改善策については、非常に素晴らしくまとまっていると思います感銘しました。

2点あるのですが、1つは、学校の先生たちはこれを見てどう思うか、どうしていったらよいと思うかということです。先生たちも皆さんそれぞれ見識もあるし、優秀でもあると思うのですが、この改善策をどう生かしていくかについても示していった方がよいのではないかと、あるいは、実際の現場のお話を聞いてまた次の施策に生かすという場面はあった方がよいのではないかと思います。先生が忙しい中で、これだけの資料を読み込んで、しかもきめ細かな、

個別の子どもたちへの指導となると、相当のエネルギーが要るのではと思うので、実際の現場との行き来のところの在り方を教えていただけますか。

それから、この中にある学習習慣づくりや生活習慣づくりは、先ほどの早寝早起きも含めて大事なことだと思うので、そこを常に言い続けられるような仕組みがあると、子どもたちの環境がもっとよくなり、学ぶ環境もでき上がるのではないかと思うのです。その辺りを言い続けることの必要性を感じているのですが、1年間通してやり遂げる方針、工夫はどのようなものがあるのでしょうか。

○**学校教育部長** まず、1点目についてですが、今回、各学校にも調査結果のデータが届いていますので、学校ごとの課題を分析していただいて、具体的な学力向上策について、先生方の意見も吸い上げながら、再度、年度末に「学ぶ力」育成プログラムを見直して新年度に向かっていただくという形があると思います。

もう1つは、私どもで、「学ぶ力」育成プログラムの充実に向けた資料等を小・中学校の校長会等でお示ししています。常に学校の状況も聞きながら「学ぶ力」育成プログラムの充実を図っているところです。

加えて、全市的な取組としての課題探究的な学習や学習習慣づくり等について、資料をつくって配布し、家庭への啓発を図るとともに、学校向けの説明会等でもこのことについて触れていきたいと考えています。

家庭への啓発の機会というのは、この資料をお渡しして終わりということではなく、来年度の学校教育の重点の中にもこの部分は盛り込んでいきたいと考えております。家庭への資料配布を通して、私どもから直接的に働きかけていくとともに、各学校からも「学ぶ力」育成プログラムの説明等の中に家庭への啓発等を入れていただければと思っています。

なお、学校でも、家庭学習の習慣づくりについてはかなり意識を持って課題として捉えていただけており、家庭学習に関する資料等を作成して働きかけている学校も数は増えてきましたので、そうした状況も十分に把握しながら、充実した啓発資料をお渡ししていきたいと考えています。

○**池田（光）委員** ありがとうございました。

○**山中委員** 今の学校との関係ですが、3学期というのはすごく短いですね。おそらく、各学校、自校の状況・課題はそれぞれ分析・検討していると思うのですが、これをもらって、自分のところの課題もあわせて、さらに次年度すぐにいろいろな対応をしていこうというにはあまりに期間が短いという気がしま

すが、学校ごとの取組はどうなっているのでしょうか。

○**学校教育部長** 全国学力・学習状況調査の学校ごとの調査結果と、各校で1学期等に実施している標準学力テスト等の各種調査から分析をして、その改善策についてはおおよそ後期に入って秋から始めているところだと思います。

今回、そこに細かい分析をさらに追加して出すこととなっていますので、それをまた参考にしていただいて、あるいは、今回の改善策もこのように出させていただいたので、これも踏まえて、学ぶ力の育成プログラムの加除修正等は、冬季休業中から3学期にかけてまた行われるのではないかと考えています。

○**山中委員** 札幌市独自調査の関係ですが、ここで設定通過率を札幌市教育委員会が独自につくっているようですが、その設定通過率が独善になってはいけないので、全国的な同種の科目の場合の設定通過率はどのようなものかという辺りの比較検討的なことはしているのでしょうか。

そうでないと、札幌市の教職員が児童に望んでいることはこのような程度ということであっても、それが全国には通用しないということになっては困るので、そこを少し心配してお尋ねするのですが、いかがでしょうか。

○**教育課程担当課長** 設定通過率については、業者に委託して行っている内容となっていますので、その問題ごとに全国的な傾向としてどの程度の平均点が過去にあるか、そういうことに基づきながら設定通過率を札幌市として設定しています。

○**教育次長** 調査基準といいますか、学習指導要領のB基準があり、国である程度示しているところ、全国的な数値というところもあるのですが、今の5年生なら5年生で到達してほしい、すべきであるというラインが評価基準で出ていますので、そこなども設定通過率を業者等々でつくるときの1つの基準になっていくと考えていただくのがよいのかなと思います。

○**臼井委員** 今の話で、少し分かりにくいと思うので伺います。例えば一般的に設定通過率というと、計算問題のある設問については60%を超すということと、60%はできてほしいということで、その設定通過率というのは、問題を作成したところで一般的につくるので、札幌市独自という言い方がしっくりきません。それはどのようなことでしょうか。

○**教育次長** 札幌市独自というよりも、評価基準のA、B、Cで考えたときに、

Bを全ての生徒は超えてほしい、さらに上に伸びていく生徒もいますので、設問によっては、そういう問題も入ってきます。B基準ということで考えてみると、札幌だけの基準という話にはならないと思います。

○白井委員 分かりました。それから、1つは意見で、1つは質問なのですが、先ほども社会と英語の調査について、教科の学力と関係のある学ぶ方法に関するところと、調べて分かったことをもとに考え方をまとめる等とありました。心理学の概念で言うと、メタ認知あるいはモニタリングとっていることなのですが、自分の頭の中で起こっている出来事のある意味で内省して把握して、自分はどこが分かっているのか、分かっているのかということによって、自分の思考を方向付けたり、ここはもっと努力すべきだということによって自己制御したりするような、ある意味、当然といったら当然のことですが、そのことに関していうと、最近、批判的思考ということが問題になっていて、自分の考えが論理的に合っているのか、文章を読んでみて、この文章のつじつまが合っているのかどうかということなどを常に考えながらやるような、そういう読解の力が非常に大事になってきています。

意見として申し上げたいことは、先ほど、あまり教科に関係がなかったこととして、学級の中で責任あるような行動をするということはあまり関係がなかったという話をされました。

実は、心理学のいろいろな研究の中で見ていくと、社会的責任目標と言っていますが、クラスの中で決められた役割をしっかりとやるか、みんなで協力して何かをするというような、社会的に意義、価値のあるようなことをやるような行動ということは、学力に対して予測的な関係で言うところにあるのです。

ここである研究というのは同時相関ですね。同じ時点で調べたことについて2つやっていて、小学4年生の時のこういうことが、5・6年生の行動をどう予測したかとやるのです。そうすると、社会的責任目標とか公社会的、プロソーシャルと言っているのですが、ほかの人に対して思いやりをやるか、援助をするか、そのようなことも、ある意味で長期的に見るとプラスの予測力をもつことがあります。

また、最近、アメリカの研究で「グリッド」と言っているのですが、日本語で言うと2つの要素があり、1つは、あることに対して持続的な関心をずっともつということ、1つのことに興味を持つとずっと興味をもち続ける。もう1つは、粘り強く取り組むということです。その傾向は、学力だけではなくて、生涯発達的に見ていくと、いわゆる「ウェルビーイング」と言っていますが、大人になってからも、主観的な幸福感とか社会的適応に対してもプラスのことだということです。

結論を言いますと、学力に直結するようなことを調べるのも結構ですけども、学級の中でのことや日常的な自分がどのようなことに興味をもって長く続けているか、そのような学力とは直結しないようなこともとっておくということが大事です。私は学力形成というのは、短兵急にできるものではなくて、持続的な試み、あるいは過程も含めてのことになるので、もう少しその辺りを広くとってほしいということが1点です。

質問は、課題のまとめと改善策の小学校のところで、専科指導の手引をつくる予定ということですが、小学校での専科というと、あるところでは音楽、あるいは外国語活動の中での英語を話せる人を入れるなどありますが、具体的にはどのようなことを含んでいらっしゃるのでしょうか。

○**学校教育部長** まず、ご質問の専科指導についてですが、今、教科は特定していません。

ただ、外国語活動を中心にとすることで進めているところであり、学校の実情によっては音楽、体育、理科等も入ってきています。

私たちとしては、幾つかの教科に広げて専科指導を推進していただくということをお願いしています。

この効果としては、専門的な先生に教わることによって子どもの意欲や専門的な知識を得ることができるということもありますし、複数の先生の手で子どもたちを見ることにもつながっていくということで、今、高学年を中心に考えています。

また、社会的責任目標、持続的関心等、本当に子どもの心情、意欲の面、内面の部分と学力との関係、あるいは、学級集団の中での関わりがどのように学力に反映しているのか、もしかしたら先ほど申し上げた体力との関係もあるかもしれません。

そのようなことも含めて、広く学力を捉えて、それに応じた総合的な施策を一本貫いてもっていくことも大事だとお話を伺って感じましたので、そういう幅広い学力の分析をしていきたいと思っています。

○**白井委員** 加えて、外国語、音楽、体育、理科というように、私が考えたよりも広いところで専科のことを考えているとのこと。例えば、理科の場合を考えてみても、小学校の先生方で、教員に養成的な大学に入る前に高校のカリキュラムで、理科は化学しか必修ではなくて、生物をとっていない、物理をとっていないという人がなっていく可能性があります。

理科のエキスパートの方が、例えば試験管の扱い方などを授業することによって、先生の研修にもつながっていきます。体育の場合も、体育が苦手だとい

う人もたくさんいると思うので、子どもだけではなくて、教師の研修ということでも非常に大きな意味があると思いますので、ぜひ、この辺りのところの充実をお願いしたいと思います。

○山中委員 私としても、個人的なことになるかもしれませんが、要望をしたいと思います。それは、こういう報告書は、調査の概要から始まって、分析、そして課題と改善策となるのはよく分かるのですが、先ほど各学校にはもう少し要約したものを渡す予定というお話もあったように思います。市民や保護者から見れば、今回の札幌市独自の調査あるいは全国学力・学習状況調査等を踏まえて、札幌市としてはどう考えて何をやりたいのかというところをまず示してほしいのです。むしろ、あまり細かいことを専門的に分析されるよりは、結論的なところを示してほしいという場合が多かろうと思います。実際にこれだけのものを読みこなすというのは、専門職である教員にとっても大変なことです。

お願いとしては、むしろ最初の方に札幌市として今回の結果を踏まえてこのようなことをやっていくのだというところを要約したものを打ち出す形をとっていただいた方がよいのではないかと思います。

専門家会議の報告書などはこういう形でもよいと思うのですが、むしろ施策として札幌市教育委員会が今後こういうことをやっていきますというところを、もっと前の方にしっかりと書いていく方がよいのではないかと思いますので、できればそういうことも考えていただきたいと思います。

○学校教育部長 保護者、市民向けの学ぶ力の育成について、私たちの発信の仕方ということをお話しいただきました。

各家庭には学校教育の重点のリーフレット、その中で「学ぶ力」の育成、こういうことが課題でこういうことをやっていきます、ということを出している部分もありますが、そこをさらに充実していくということもありますし、ホームページの掲載の仕方等も少し分かりやすくということで、最終的に私たちの方でコンパクトに、今回の分析、この施策のことを分かりやすく発信していく工夫をしていきたいと思います。

○山中委員 お願いします。

○長岡教育長 まとめではないですが、この資料をお見せしたのはきょうが初めてです。報告ですから、一旦、知ってもらって、事務局として次の施策につなげるというのはそれでよろしいと思いますが、少なくとも委員がこの場で見

て読み下せるわけがなくて、追認ということになるのでしょうか、ちょっと乱暴だなという気がしますので、資料をあらかじめお渡しいただけるのだったら、渡して事前に読んでいただく、それがかなわないのであれば、点検評価も3度、4度、5度とやっていますね。この部分は、学力のお話と、全国学力・学習状況調査の話と、札幌市独自調査の話、さらにさかのぼれば、体力の話も含めて非常に重要だと私は思っていますので、ポイントでもよいので、先にお伝えして議論していただく。それが1回だけではなくて2度、3度あってもよいと思いますので、そういう工夫をしていただきたいと思います。

今、山中委員がおっしゃったように、市民や保護者への発信の部分も含めて札幌市教育委員会として何をやりたいのか。調査結果が出たからご覧いただいて終わりとするのではなく、その辺りのポイントを説明した上で、その改善策なり、札幌市としてどういう方向で行くのかというのをもう少し分かりやすくお示しして、それが仮に違っていれば意見をいただくということで、工夫をしていただいた方がこの報告の取扱いとしてはよいと思います。ご異論ありませんでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○長岡教育長 これからそのように工夫していただければと思います。

きょうお渡ししたのであれば、年が明けてからでも結構ですので、もう一度ご覧いただいた中で、議論する場を設けていただいてもよろしいと思いますので、検討してみてください。よろしくをお願いします。

○池田(光)委員 教育長もおっしゃるように、ぜひこれで終わりではなくて始まりの資料にしていいただければと思います。

○長岡教育長 事務局、よろしくお願ひいたします。

それでは、報告は以上です。

◎議案第1号 「平成28年度全国学力・学習状況調査」への札幌市の対応について

○長岡教育長 議案第1号について、事務局から説明をお願いします。

○学校教育部長 議案第1号「『平成28年度の全国学力・学習状況調査』への対応について」ご説明します。

お手元の資料1をご覧ください。

12月8日（火）付けで、文部科学省から「平成28年度全国・学力学習状況調査の実施について」の通知があり、あわせて、本調査への参加についての照会がありました。

全国学力・学習状況調査の実施については、実施以来、市民の関心が極めて高く、市議会においても取り上げられていることから、平成27年度調査と同様、平成28年度の調査についても、対応方針について教育委員会会議に付議することとしました。

それでは、平成28年度全国学力・学習状況調査について確認をさせていただきます。「平成28年度全国学力・学習状況調査実施要領について」をご覧ください。

このことについては、平成27年度と同様、悉皆調査であり、大きな変更点はありませんが、下の方の2の調査事項の次のページ、2ページの（ア）にあるように、今年度実施された教科の理科は、平成28年度調査では実施されません。小学校は国語、算数、中学校は国語、数学となっています。また、3の調査実施日等ですが、実施日は平成28年4月19日（火）となっています。

続いて、7ページをご覧ください。

今回、特に新たに加わった点としては、7の留意事項の（1）各教育委員会、学校等における調査の実施及び調査結果の活用等のアにあるように、「調査の目的に鑑み、各教育委員会、学校等においては、調査結果を直接又は間接に入学選抜に関して用いることはできないこと」と付け加えられています。

続いて、平成28年度調査への対応についてです。教育委員会としては、札幌市教育振興基本計画に位置付けている、さっぽろっ子「学ぶ力」の育成プランに基づく教育施策について、札幌市全体の状況を把握し、改善を図っていくことや、また、各学校においても、児童生徒の学習状況等に応じた教育指導の充実、改善に役立てていくことが重要だと考えており、昨年度に引き続き、本調査に参加することとしたいと考えています。

私からの説明は以上です。ご審議のほど、よろしくをお願いします。

○長岡教育長 議案第1号について、ご意見等ございますか。

○池田（光）委員 全国学力・学習状況調査を実施して、報告があつて、最終的に今回のようにプログラムをまとめるという、全体のタイムスケジュールを意識して作っていただいて、来年度できる限り早く学校に情報提供して、活用されることを意識して取り組んでいただければありがたいと思います。

○学校教育部長 「学ぶ力」の育成の全体の年間のプログラム、スケジュールですね。

○池田（光）委員 そうです。

○長岡教育長 よろしくお願ひいたします。ほかにありますか。

（「なし」と発言する者あり）

○長岡教育長 それでは、議案第1号については、提案どおりということでしょうか。

（「異議なし」と発言する者あり）

○長岡教育長 それでは、提案どおり決定します。

◎議案第2号 高等支援学校の校名について

○長岡教育長 議案第2号について、事務局から説明をお願いします。

○学校教育部長 議案第2号「高等支援学校の校名について」ご説明します。

本案については、平成29年4月に南区真駒内に開校する（仮称）南部高等支援学校の校名について、（仮称）市立札幌みなみの杜高等支援学校とするとともに、北海道札幌市立豊明高等養護学校についても、平成29年4月から（仮称）市立札幌豊明高等支援学校と名称を変更することについてお諮りするものです。

いずれも、正式な変更については、札幌市議会での条例改正が必要ですので、あくまでも仮称という段階でのご審議となることをご承知おきください。

それでは、お手元の添付資料をご覧ください。

まず、新設校（仮称）南部高等支援学校の校名検討の経緯についてご説明します。資料の2番をご覧ください。

このことについては、まず、本年5月29日（金）に行われた教育委員会会議において、（仮称）南部高等支援学校の校名案の検討に当たり、校名案を公募により募集すること、あわせて、校名検討委員会及び応募作品選考会の設置についてご審議いただき、お認めいただいたところです。

その後、6月10日（水）に第1回校名検討委員会を開催し、座長の選出、応募方法などの検討をいただき、7月1日（水）からほぼ1か月の期間、校名案を広く公募により募集しました。

その結果、応募総数は141点、重複する名称を除いた件数が124点となりました。

次に、応募作品について、8月と9月の2回、応募作品選考会を開催し、資料中段にある10点の校名案と、この校名案に含まれているもの以外で校名案の要素として残しておきたいキーワードを校名検討委員会に推薦していただきました。

その報告を受けて、第2回の校名検討委員会において検討が行われましたが、その中で、現在においても、道立の北海道真駒内養護学校を初め、「真駒内」のつく校名が非常に多いこと、また、「翔」のつく校名案が7、8、9番にあります。既に市立の北翔養護学校があり、「豊成」「豊明」など似た校名の場合、間違われることが多いというご意見もあったことなどから、候補から外すこととし、残った校名案及びキーワードをもとに最終候補を検討することとなりました。

第3回検討委員会では、各委員の意見により、「真駒内」という文言は入れないとしても、真駒内地区を象徴する「みなみ」をキーワードとして入れること、また、新設される学校が知的障がいのある生徒を対象とする学校であり、

優しさや温かみのある響きが望ましいことから、音読みよりは訓読みによるものの方がよいとの意見もあり、「みなみ」に合わせる言葉として、校名案の3番に上げられていた、「夢の杜」の「杜」とキーワードの1番に挙げられておりました「風」の組み合わせが最終候補として残りました。

事務局において最終候補となった「みなみの風」と「みなみの杜」について、確認したところ、「みなみの風」については、既に宮崎県に同名の支援学校があったことから候補から外し、最終的に「みなみの杜」について、標記を含めた検討を重ね、今回、選定された校名案となりました。

この「杜」の標記についても、「森」と「杜」のどちらがふさわしいかの議論がありました。自然豊かな南区で、生徒たちが楽しく学ぶことを願い、「森」の方がよいとの意見もありましたが、今回、新設する学校は高等部の生徒を対象としていることから、楽しさも大切ではありますが、地域とともに作り上げていく学びやとしての意味を込め、「杜」となりました。

この「杜」については、お手元の別紙資料、インデックスの3の右下の解説にも入っていますが、鎮守の森などの意味もあることから、その標記について検討されましたが、この漢字のもともとの意味がヤマナシというバラ科の植物であったこと、また、「杜の都仙台」を初め、品川区に平成25年に開校された小中一貫校の校名が「豊葉の杜学園」など、学校名を初め、一般的な使用に支障がないものと判断して、「杜」を使用することとしました。

なお、「みなみの杜」という言葉については、愛媛県の介護施設に同様の標記をするものがありますが、登録商標などはされていないこと、また、市立札幌を冠することなどから特段の支障はないと判断しました。

これらの検索結果等については、委員の皆様のお手元に別紙資料としてお配りしているので、後ほど、ご確認いただければと思います。

これらの検討を受けて、過日、12月8日（火）、校名検討委員会座長の小野寺氏より、（仮称）南部高等支援学校の校名案とそこに込めた思いや願いについて教育長にご報告いただいたところです。

そのときのご報告内容について、読み上げさせていただきます。

「1校名案『（仮称）市立札幌みなみの杜高等支援学校』。

2選定理由。（1）『みなみ』は、札幌市の南区、真駒内地区を示すものであるとともに、『あかるさ』や『ぬくもり』を意味し、地域の方々の『やさしさ』に包まれて、そこで学ぶ生徒に培いたいおおらかな人間性を表す。

『杜』は、仲間がたくさん集い、楽しい学校生活を送る緑豊かな大地の『もり』と、生徒たちが地域の方々とともに作り上げる学び舎としての『もり』の意味を併せもつ。

その『みなみの杜』において、一人一人の生徒が、自らの夢や目標の実現の

ために、自分のよさを存分に発揮して成長すること、そして、その思いを丁寧
に育み、未来に向かって活躍できる人材を育成することを願うものである。

(2) 『市立』を頭に冠し、『札幌』を校名に入れることで、札幌市民のため
の高等支援学校であり、地域の方々とともにまちづくりに参画していくこと
を簡潔に示すとともに、全国に誇れる学校になることへの期待を表している。」
とのことであります。

なお、資料の3番にあるように、今回の(仮称)南部高等支援学校の校名と
合わせて、同じ教育目的を持ち、対象となる生徒も同じである豊明高等養護学
校についても、今回の校名に倣い、市立札幌豊明高等支援学校と改称したいと
考えています。

最後に、主なスケジュールですが、資料の4番にあるように、年明け1月に
学校設置条例の一部を改正する条例案の提出に係り教育委員会会議にお諮りし、
その後、2月に予定されている第1回定例市議会において改正条例案として提
出することとしております。

説明については以上です。ご審議のほど、よろしく願いいたします。

○長岡教育長 ただいまの説明について、ご質問・ご意見はございますか。

○阿部委員 みなみの杜というのは、大変よいと思いますが、最初の札幌市立
ではなくて、市立札幌と逆転しているのはどういうことなのでしょう。

3ページ目には、「校名の構成として、札幌市立の学校であることを明確に
するため」と書いてあるのですが、逆になっているのはこれが理由なのかと少
し不思議な感じがします。

○教育推進課長 既に、市立札幌という名称は、開成中等教育学校でも市立札
幌という名称にしています。これは、市立を先に持ってくることによって、道
立との区別が付きやすいという形で、そちらを先に持ってきた経緯です。

○阿部委員 分かりました。

○山中委員 札幌市内の市立学校は全部そうになっているということではないの
ですか。

○教育推進課長 これから新しくなる部分については、これがスタンダードに
なってくるかと思っております。

○山中委員 今までは逆だったのですか。

○教育推進課長 はい。

○長岡教育長 現に今は札幌市立豊明ですね。それを、今回、豊明も同様の学校であることから変えるのだけれども、やはり、札幌市立というのが今までは普通です。

○教育推進課長 普通の義務教育の市立小・中学校はそこまでと思っていませんが、高校や中等教育学校など特色のある学校についてはこのような名称で統一していきたいと思います。

○山中委員 一般の学校については、これに合わせてはいかないということなのですか。

○教育推進課長 はい。全国的に、普通の小・中学校に関しては、札幌市立もしくは何々町立などというのが一般的ですので、そちらは特に変更は加えなくてもよろしいと思います。

○長岡教育長 札幌の独自色のある学校としては、市立札幌と。

○教育推進課長 道立との区別ということでもあります。小・中学校に道立の学校はありません。

○山中委員 道立との区別というと、例えば、札幌市立旭丘高校は、市立札幌旭丘高校なのか、ほかの市立高校もそうなのですが、開成と区別することはないではないかということになってしまいます。開成は特殊な学校だからというのなら分かりますが。

○長岡教育長 小・中学校以外はその方向でこれから考えていきたいということなのでしょう。だから、今度、高校も8校ありますが、何か機会があればその方向でいきたいということですね。

○教育推進課長 学科転換などの大幅なことがある場合については、校名についてもあわせて考えて、特色を打ち出したような名前を出していきたいと考えています。

○長岡教育長 今回、特色がありますね。

みなみの杜ということでは、検討委員会で十分ご審議いただいて決定したということで、響きもよいかと思いますが、ほかによろしいでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○長岡教育長 それでは、議案第2号について、提案どおりということによろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○長岡教育長 それでは、提案どおり決定いたします。

議案第3号からは公開しないこととしますので、傍聴の方は退席をお願いします。

[傍聴者は退席]

<h1>以下 非公開</h1>
